

27 明治10年4月14日 菊池長閑

第四号 四月十四日 認

第一号三月十四日達し本宿之事心配申越之趣尤ニ候宅命も大尉ニ升進(ついで)月給も増加する故月々之小遣丈ハ仕送はつ其余之事ハ及丈世話する積也末二郎も当二月修業ニ登リ五ヶ年之見込ニ而此節留主藤田も同断留主ミな我等へ計リ懸リ候責而二男ニ而も有之用向為取計候ハ、さのミ大義とも存間敷候得とも只我手一ツも同然故三家之用向引受候ものゝ実ハ苦勞ニ存候横田ハ土一握所持無之上龍郎病中之物入ヲ引統内事不容易不都合ニ而往々心配ニ候得は此間浅岸村ニ三駄片馬穀入之田地四十円ニ調横田エ預ケ候右金ハ我等申合溜金エ龍郎存生中より加入いたし今以月々出金致候当年中ニハ元利にて四十二三元ニ可相成右より引取約定ニ而立替候右三駄片馬之内より税金差引ハ漸々弑駄計り残り飯料も聊故末次郎下りまで税金諸入費ハ我楽(わが)ニ而助力いたし候積左候得は三駄片馬ハ半年之飯料ニ相成候往々難波之節ハ姉様老人丈ハ引受不申ハ不成御儀ゆへ先ツ右之通ニ致置候ハ、同し厄介するニも少しハ省け可申候又其中ニ末次郎用ニ立候ハ、後々ハ横田之一方之足にも可相成と存候

第二号去ル七日相違候写真ハ郵便へ出し紛失を氣遣実便次第可届旨河村より申来候達候ハ、速可申遣候西国筋之事ハ新聞ニ而

心得候半未た決極不付候此県ハ勿論隣県あたりにも先ツ平穩ニ
而至極安心ニ候

浅岸村之内字向田と申処ニ而田三反四畝貳拾三步去月八十円ニ
調候此出来四石五斗五升と定メ税金外諸入費貳石壹斗と見做差
引貳石四斗五升之殘米手取りと大凡積り水難旱損之憂無之由尤
上飯岡久之助エ預置候田畑ハ粗地之上手遠ニ付此度同人エ五十
貳円ニ相払候

本年一月減税被仰出区入費も准して半減ニ成候得共迎も半数ニ
而ハ不引足より戸数力とかと唱ひ株ニ応して出金之目論見有之
哉と相聞得候何卒不公之取計無之様祈候当県之評議などハ中々
承知されさうなく相聞得候〇一条も去月職務を引渡し帰県いた
し居候外別事無之候以上

武夫殿

長閑

(封筒表)

「亜米利加国ホストン府

□□トウイン。ストリート

□十二番地

菊池 武夫殿

要用書

(封筒裏)

「日本陸中国岩手県下盛岡

第一大区五小区加賀野八十六番地

菊池 長閑

平安

(武夫注記)

(武夫注記)
「返事済」